

<事業名> 「清滝の桜」 フォトコンテスト&桜の新名所づくり

団体名	清滝・桜の会
所在地	豊岡市日高町
代表者名	北村哲三

事業内容	<p>「フォトコンテスト」応募用紙を校区に全戸、市内各公民館、道の駅、写真店等に配布して募集。写真愛好家、写真サークルにも依頼。昨年の入賞作品を使ったカレンダーを校区全戸、公民館等に配布。桜祭り開催時に表彰式、4月5日から15日まで入賞作品を使って写真展を但馬巨木保存会の写真展と同時開催。撮影対象範囲を校内から校区に広げたため校区内の桜の紹介、各区内桜の管理方法の相談を行う。</p> <p>小学校の桜がソメイヨシノとして県下最大である事が確認出来たので折々にアピールし、認知度の向上に努めた。豊岡市老人クラブ連合会から依頼され「清滝の桜」を紹介する機会を得られたことは幸いでした。</p> <p>地区内に桜の新名所を作ろうと「桜・清流の郷きよたき」と協働で山宮スキー場跡に立雲峡の山桜・樽見の大桜の種子から育てた5～8年生のものを小学校児童と植樹した。</p> <p>「フォトコンテスト」は公民館で常時受付して締め切り後、桜の会・「桜・清流の郷きよたき」・小学校・外部審査員の4者で審査を行い、推選1点・特選2点・入賞20点を選出した。推選の作品を使いカレンダーを制作、校区内を中心に配布。</p>	
地域	<p>応募者は日高町8名、旧豊岡市5名、竹野町2名、但東町1名、姫路市2名、加古川市1名 計75点</p>	
事業の効果	<p>① 団体（組織）内の効果</p> <p>写真をカレンダーにする事により年間を通じて桜への関心が高まり、桜の管理活動への理解が深まり、地区民の協力が得られやすくなった。撮影するという視点が加わり、桜の素晴らしさが再発見された。また地域内外の人に撮影を依頼する事で愛着がより強くなり、守り育てる活動が強化された。</p> <p>会員が自分の手で植樹する事で成長を見守る気持ちが強まり、地区の桜の管理作業に熱が入ってきた。</p> <p>② 地域への効果</p> <p>写真をカレンダーにする事により年間を通じて桜への関心が高まり、桜の管理活動が広がった。カレンダー配布も定着し楽しみに待たれるようになった。撮影対象範囲を広げたために各区桜への関心が高まり、放置していた桜の保全管理が始まった。溶岩流と桜の組み合わせという視点が生まれ、両者併せての地域活性化活動が検討された。県下最大である事が地区民の誇りを高め、知人・同窓生等を通じ地区への関心が広がっている。桜見物の来訪者が年々増えている。</p>	
事業経過	<p>30年4月</p> <p>4月5日～15日</p> <p>4月7, 8日</p> <p>随時</p> <p>10月26日</p> <p>11月18日</p> <p>2月15日</p> <p>2月20日</p>	<p>第5回フォトコンテストによるカレンダー配布</p> <p>フォトコンテスト応募用紙配布 以後随時</p> <p>入賞作品写真展開催。但馬巨木保存会による「巨木写真展」も同時開催。</p> <p>第36回清滝さくらまつり</p> <p>フォトコンテスト応募 清滝公民館にて受付、整理。</p> <p>豊岡市老人クラブ連合会の事業で「清滝の桜」を講演</p> <p>新名所づくり 山宮スキー場跡に桜20本を植樹</p> <p>フォトコンテスト応募締め切り</p> <p>フォトコンテスト審査会</p> <p>カレンダー制作</p>

協働の相手方	桜・清流の郷きよたき 清滝小学校、緑の少年団
今後の課題等	<p>〈事業を実施する上での課題〉</p> <p>① 団体（組織）の課題 会員が各区の桜の保全管理活動を行うこと。 会としては各区の桜の状態・本数を把握すること。 フォトコンテストへの応募増をはかること。 桜の保全管理への人と経費の基礎基盤の強化</p> <p>② 地域の課題 桜の管理作業を介して異世代交流をはかる。 溶岩流と桜を併せた活動、特に地域コミュニティーと協力して地区全体を包む活動として地域の宝である桜を役立てたい。</p> <p>〈31年度以降の事業計画〉 フォトコンテストは可能な限り続けたい。カレンダー製作・配布。 「清滝さくらの歌」DVDの有効活用。 地区内の桜の名所の拡充あるいは新設。</p>



30年4月5日～30年4月15日 写真展



30年10月26日 豊岡市老練講演会



30年11月18日 桜植樹での宮田樹木医の指導



31年2月22日 審査結果 推選作品